



25年の歳月を経て高橋悠治が再構成する如月小春の戯曲「トロイメライ」。
1984年にファンタジックに描かれた少年少女の世界が
高橋悠治が奏でるシューマンの名曲「トロイメライ」に乗って現代に蘇ります。

タイトル	高橋悠治 / 構成・台本・作曲・ピアノ トロイメライー子供の情景(2008)
出演	高橋悠治 / 台本 作曲 演奏、Ayu / 声ギター 遠藤良子(劇団黒テント)/ サキ、鈴木 光介(時々自動)/ カイ、楳屋一之 / 人類
日時	2009年10月3日(土) 17:30開場 18:00開演 4日(日) 13:30開場 14:00開演
会場	金沢21世紀美術館 シアター21
料金	前売 ¥3,500 / 当日 ¥4,000 (全席自由) [友の会会員特典] ※美術館ミュージアムショップでの前売券購入に限り1割引、学生会員は500円引きになります。 (会員証とともに学生証提示) ※友の会会員は優先入場特典があります。開場の10分前にお集りください。(入場時、会員証提示)
チケット取扱	金沢21世紀美術館ミュージアムショップ TEL 076-236-6072 チケットぴあ [Pコード:396-872] http://t.pia.jp/ (電子チケットぴあ) TEL 0570-02-9111(オペレーター対応) TEL 0570-02-9999(自動音声) ローソンチケット[Lコード:55249]
主催・お問合せ	金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団] TEL 076-220-2811(交流課)
協力	水牛 タイトルロゴ・イラスト 平野甲賀

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当/黒田 事業担当/近藤、出戸、中山
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814(広報室) FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



企画背景

「再生」～開館5周年記念企画～

高橋悠治氏が金沢21世紀美術館に初めて登場したのは2004年。美術館が開館した10月の終わり頃、「ベーゼンドルファーを弾く」という今やシリーズ化したピアノコンサートのこけら落とし公演をして頂いたのが最初である。

この時使用されたのは1960年製のベーゼンドルファーで、かつては金沢市内の大きなホールで使われていたものだが、いつの間にか古くなり倉庫にしまわれてしまっていたものを、美術館シアターのハウスピアノとしてオーバーホールし、まさに高橋氏の手によって柿を落とし、蘇らせてもらったのであった。

そんなご縁もあり、高橋氏には昨年2008年もベーゼンドルファーシリーズに再びご登場頂いた。また高橋氏のご子息AyuO氏にも、当館主催「荒野のグラフィズム：栗津潔展」の関連ワークショップに携わって頂くなど、美術館ではこれまで親子ともに度々関わって頂いてきた。今回はこの公演で親子共演が見られるのも楽しみの一つである。

高橋氏は1960年代から現代音楽のピアニストとして活躍されているが、画家や舞踏家とコラボレーションしたり、コンピューターによる作曲を試みたりと、節目節目に数々の音楽実験をされている。こうして常に音楽の意味を問い続けている高橋氏だからこそ、「トロイメライ」も単なる演劇とはひと味違う味付けが期待できる。

この「トロイメライ」は、昨年如月小春への追悼として、また高橋氏の古稀の記念として、様々な思いをこめて再演されたものだが、金沢での公演には、今年開館5周年を迎える美術館と、熟成した高橋氏の奇妙なシンクロシティを感じずにはいられない。

というのも、開館5周年にあたり、今年美術館では多彩な企画が練られているのだが、「ただの回顧展にはしない」というのが館のポリシーとなっている。高橋氏と美術館の関係もちょうど5周年にあたる訳だが、同様に「ただの再演」にはならないだろうことは想像がつく。それは、高橋氏の手により21世紀という時代の新たな現代性が見出される、という意味において、奇しくも金沢21世紀美術館のベーゼンドルファーと如月小春の戯曲がシンクロするからである。

古いベーゼンドルファーが命を再び与えられ新たな時代の響きを聞かせてくれるのと同様に、如月小春の戯曲に再び新たな命が吹き込まれるに違いない。

(文責:中山なち)

作品について

「トロイメライ」は劇作家・演出家の如月小春(1956～2000年)が主宰する先鋭的パフォーマンス集団「NOISE」(1983～2000年)での2作目として1984年に書き上げた作品。初演は当時東京・新宿の丸井インテリア館最上階に在ったマルチパーパススペース(多目的催し会場)で行われ、仮面劇として上演された。パブル景気を背景に劇場が乱立した時代にあえて劇場ではない場所を公演場所として選んでいる。2008年9月、当時から如月小春と親交のあった高橋悠治の再解釈により現代風にアレンジされ、削ぎ落とされ、5人の出演者と演奏家によって東京・シアターイワトにて再演。メトロポリスに生きる人間のこころが少年少女のものごたりによって語られ、それは20世紀に人類がつくり出した課題を21世紀にまで引き継いでしまった現代の私たちへの問いかけとなっている。

トロイメライとはドイツ語で「夢をみること」「夢想」の意。ドイツの作曲家ロベルト・シューマンが1838年に作曲したピアノの代表曲『子供の情景』の第7曲が『トロイメライ』。作曲家の言葉によれば、この作品は「こどものための曲ではなく、大人の回想であり、大人のためのものです」技巧的に難易度は高くないが、それ故演奏家の技量と個性が表れる作品。高橋悠治氏の弾く「トロイメライ」も今回の聴き所です。

関連サイト

金沢21世紀美術館ポッドキャストラジオ番組 Marubi on the Radio にて高橋悠治氏、楳屋一之氏のインタビュー配信中。

- 高橋悠治氏インタビュー(2009年9月7日配信)
http://www.marubiontheradio.com/2009/09/post_38.html
- 楳屋一之氏インタビュー(2009年7月6日配信)
http://www.marubiontheradio.com/2009/07/weekly_news_200976.html

※内容詳細・出演者プロフィールについてはチラシ、web (<http://www.kanazawa21.jp/>) をご覧下さい。
※上記プログラムについて、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願ひ申し上げます。
※写真をご希望の場合や当日のインタビュー及び取材をご希望の方は、
広報室までお申し付けください。お待ちしております。